

=====
◆◇「犯罪からの子どもの安全」メールマガジン vol.11 ◇◆
2009年7月29日号
=====

このメールマガジンでは、(独)科学技術振興機構 社会技術研究開発センター(以下、RISTEX)「犯罪からの子どもの安全」研究開発領域が領域の活動報告をはじめ、各種イベント案内、国の取組み、問題に取り組む人々の紹介など、犯罪からの子どもの安全に関する様々な情報を毎月一回程度配信しております。

次回から配信を希望されない方、登録情報を変更したい方は、末尾をご参照下さい。

メルマガについてご意見やご感想、こんな情報が知りたい、こんな取り組みを行っているなど、皆様からの情報をお待ちしています！

◆◆ INDEX ◆◆

1. 犯罪からの子どもの安全レポート
- 第5回「学校の安全・危機管理セミナー」参加レポート
- 「児童ポルノ根絶に向けた重点プログラム」について
2. 「犯罪からの子どもの安全」WEBサイト更新情報・今月の見どころ
3. 「犯罪からの子どもの安全」WEBサイトアクセスランキング
今月一番注目されたコンテンツとは・・・

1. 犯罪からの子どもの安全レポート

皆さんこんにちは。

関東甲信越地方は本州ではいち早く梅雨明けを向え、ジリジリ夏らしい日差しが照りつけています。夏バテなどしないよう、お気をつけください。

犯罪からの子どもの安全領域では、今年度の選考の真っ最中で、先日書類選考会を行いました。外の暑さに負けず劣らずの熱い議論が交わされ、面接選考へと進む課題を選考しました。今後、面接を実施し、提案内容の変更など条件を検討した上で採択課題を決定する予定です。

各プロジェクトでも様々な動きがあります。まず、8月6日～7日にかけて、日本行動計量学会第37回大会において、二つのプロジェクト実施者が企画した特別セッション「生活環境の安全・安心」が開催されます。詳しくは以下をご覧ください。

「子どもの被害の測定と防犯活動の実証的基盤の確立」プロジェクト
→ http://www.anzen-kodomo.jp/program/research/y_harada.html

「計画的な防犯まちづくりの支援システムの構築」プロジェクト
→ http://www.anzen-kodomo.jp/program/research/t_yamamoto.html

6月下旬には、「虐待など意図的傷害予防のための情報収集技術及び活用技術」プロジェクトの研究拠点である産業技術総合研究所を訪問。つい先日は「犯罪から子どもを守る司法面接法の開発と訓練」プロジェクトの海外アドバイザーである英国レスター大学のレイ・ブル教授が来日し、プロジェクトへの助言や講演を行うということで、領域担当が参加してきました。このときの様子は、来月のメルマガにてレポートをお届けしますので、お楽しみに！

今号では、7月22日に行われた第5回「学校の安全・危機管理セミナー」参加レポートと近年世界的に問題視されている児童ポルノに関するレポートを掲載しています。ぜひご覧ください。



- 7月22日(水)開催
全国学校安全教育研究会／東京都学校安全教育研究会／
学校安全教育研究所 主催
第5回「学校の安全・危機管理セミナー」
(東京都墨田区 江戸東京博物館) 参加レポート

梅雨明け間もない7月下旬、ぐずついた天気の下、標題のイベントが開催され、参加してきました。第5回目となる今回は「犯罪や災害から子どもたちの命を守る」をテーマに、防犯と防災、二つの側面から学校の安全について多様な講演が展開されました。その中の一つとして、当領域の研究代表者の一人である、原田豊氏(科学警察研究所犯罪行動科学部長)による講演が行われましたので、今回はその講演内容を中心にレポートをお届けします。

プログラム等の詳細はこちらをご覧ください。
→ <http://www.njp.co.jp/gakuan/sub04.htm>

講演の冒頭、原田氏は小学生の女の子が一人で通学している風景を撮影した短いVTRを流しました。この映像を見て、おかしな点を当ててほしいと言い、壇上から気付いた人に挙手を求めましたが、全く手は挙がりません。答えは、「分からなくて当然」とのこと。なぜならこのVTRにある風景は、「日本においては」ごく自然なものだからだそうです。

実はこのVTRは10年ほど前にアメリカのテレビ番組で日本の社会を紹介する際に流れたもので、日本は小学生が一人で通学できるほど安全な国なんだということを表現したものだそうです。ただ、これはあくまでも10年前の話で、実態は少し違ってきているようです。

子どもの防犯の問題点として、原田氏は実態把握ができていないという点を挙げていました。実態把握と一口にいても、これは大変なことです。実態を把握するためには、科学的・客観的に取り組む必要がありますが、これは難しいという認識が蔓延してしまっている感もあるとのこと。

ここを打破するためには、「過去の失敗に学び、現状を知る」ことが必要で、過去の失敗については、同じことの繰り返しを防ぎ、教訓を記録し、分析する必要があるものの、はたしてそれができているのだろうかと問題を提起。

大きな事件が起きた際に、事件の悲惨さだけでなく、何が起こったのか、

何かなされるべきであったか、事実を見るよう心がけなければならないと強調しました。

大阪教育大学附属池田小学校では事件後、とても詳細な報告書を作成しており、これは画期的なことと述べた上で、事例を紹介しました。例えば、警察のレスポンスタイム（通報を受けてから現場に駆け付けるまでの時間）は平均6～7分と言われており、これをたった5分間で幼い命が奪われた先述の池田小学校の事件に当てはめると、犯行を察知してから通報していたのでは、被害を防ぐには間に合わないこととなります。

被害を未然に防げるにこしたことはないのですが、それが難しい場合もあるので、そのことを前提に、レスポンスタイムなどの実態を踏まえた上で、対策を考える必要があること、過去の事例から学ぶことの大切さを訴えていました。

その後、実際の取組みとして、当領域のプロジェクト「子どもの被害の測定と防犯活動の実証的基盤の確立」についての説明がありました。GIS（地理情報システム）を活用した地理的犯罪分析や、危険を測る「ものさし」を開発していることなどを具体例とともに紹介し、成果を社会に還元したいとの思いも述べていました。

プロジェクトの詳細はこちらをご覧ください。

→ http://www.anzen-kodomo.jp/program/research/y_harada.html

事件の悲惨さだけでなく、同じ過ちを繰り返さないためには事実を見るよう心がけなければならない、というフレーズはとても印象的で、事件の一場面しか見ていないだろう自分にとってガツンと響きました。原田氏の研究にかける思いが伝わってくるような講演でした。

（領域担当 S.F.）



●「児童ポルノ根絶に向けた重点プログラム」について

児童ポルノを取り巻く状況は、平成20年度の検挙件数、検挙人員、被害児童数が過去最多を示すなど、深刻さを増しています。インターネット上での児童ポルノ流通に関する問題は特に深刻であり、国際的な関心事項となっています。具体的な問題点としては、以下のようなものが挙げられます。

<問題点>

- ・被害児童の特定・救済が難しい児童ポルノ画像が多数存在
- ・掲示板等に流通している児童ポルノを利用者が容易に検索・閲覧可能
- ・製造の過程で児童への著しい性的虐待を伴い、虐待から解放されても、回収が困難なため、記録が残り続け被害児童を苦しめる
- ・被害児童に対する脅迫の道具として利用される可能性がある
- ・児童を性欲の対象としてとらえる風潮を助長する

そのような中、警察庁は先月「児童ポルノ根絶に向けた重点プログラム」を策定しました。このプログラムは、インターネット上に氾濫する児童ポルノを根絶し、深刻な人権侵害を受け、将来にわたり苦しむ被害児童を無くすための総合的な対策を推進するために策定されたものです。

詳細はこちら

→ <http://www.npa.go.jp/safetylife/syonen42/tsuutatsu.pdf>

このプログラムでは、「取り締まり」「流通防止対策」「被害児童支援」の3つの大きなカテゴリを軸に構成されています。その中には、現在行っている施策を強化するものだけでなく、警察として新たに取組む施策が含まれており、後者について以下のようなものが挙げられています。

<取り締まり>

- ・警察庁における画像分析班の設置等による情報分析機能の強化
- ・職員の外国捜査機関の研修への参加等を通じた新たな捜査手法等の導入の検討

<流通防止策>

- ・「児童ポルノ流通防止協議会」でのポルノ掲載アドレス作成管理団体（仮称）の創設やブロッキングの実施に向けた検討への協力
- ・児童ポルノ掲載アドレスリストを活用したさらなる流通防止対策の検討 など

<被害児童支援>

- ・被害児童の発見・保護活動の強化に向けた画像分析態勢の構築および分析手法の検討
- ・被害児童の心情に配慮した具体的聴取手法の検討 など

冒頭にも述べましたが、インターネットの普及に付随して国際的な課題へと発展したこの問題においては、取り締まりの項目にあるように、外国捜査機関と情報交換や国際捜査協力及びそのための調整を行うなど、連携態勢の強化などが期待されます。

流通防止策として取り上げられた「児童ポルノ流通協議会」は、児童ポルノ流通防止対策に関係する事業者、児童ポルノ流通防止に取り組む民間団体、学識経験者等からなるもので、産学官連携での取り組みも進みつつあるようです。

またブロッキングについては、欧州諸国では、インターネットサービスプロバイダー（ISP）によりすでに実施されていますが、日本でも先月、民間のプロバイダーが自主的に運用できるよう、協議会が発足するなどの動きもあり、今後の進展に注目です。

また、被害児童支援の中に、「被害児童の心情に配慮した具体的聴取手法の検討」があります。当領域では、事件に巻き込まれた／巻き込まれそうになった子どもからの的確に事実を聞き出すための手法や訓練プログラムを開発しており、通ずるものがあるかもしれません。

プロジェクトの詳細はこちら

→ http://www.anzen-kodomo.jp/program/research/m_naka.html

被害を受けた児童が将来にわたって苦しむ可能性を軽減するためには、流通の阻止などに向けたハード面での対策はもちろんのこと、心身ともに健やかに過ごせるよう、ソフト面でのサポートも伴って初めて効果的なものとなるのは明らかです。現時点では児童ポルノ対策については後れを取っていると言われている日本。

先進諸国に追いつけ、追い越せの勢いで、日本の現状に即した対策が一日も早く定着することを願って止みません。

（領域担当 S.F.）

2. 「犯罪からの子どもの安全」WEBサイト更新情報・今月の見どころ

【更新情報】

●国の取組み

犯罪対策閣僚会議 第13回会合資料（首相官邸）

<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/hanzai/dai13/13gijisidai.html>

平成21年版「青少年白書」を公表しました（内閣府）

<http://www8.cao.go.jp/youth/suisin/hakusho.html>

児童ポルノの根絶に向けた重点プログラムの策定について（警察庁）

広報資料：<http://www.npa.go.jp/safetylife/syonen42/shiryuu.pdf>

概要：<http://www.npa.go.jp/safetylife/syonen42/gaiyou.pdf>

資料：<http://www.npa.go.jp/safetylife/syonen42/jousei.pdf>

通達本文：<http://www.npa.go.jp/safetylife/syonen42/tsuutatsu.pdf>

子どもや女性を守るための匿名通報モデル事業におけるインターネットでの受付運用開始について（警察庁）

http://www.npa.go.jp/safetylife/hoan2/210702_tokumeitsuho.pdf

「安心・安全なインターネット環境整備に関する戦略対話」の結果（総務省）

http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/02tsushin07_000002.html

平成20年版犯罪白書（詳細内容）を掲載しました（法務省）

<http://hakusyo1.moj.go.jp/jp/55/nfm/mokuji.html>

安全・安心に資する科学技術の推進について（中間まとめ）（文部科学省）

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu2/gaiyou/1269826.htm

都市計画部会 安全・安心まちづくり小委員会中間とりまとめの公表について
（国土交通省）

http://www.mlit.go.jp/report/press/city01_hh_000013.html

その他の取組みについてはこちら

→ <http://www.anzen-kodomo.jp/ministries/>

●イベント情報

平成21年8月4日～ 日本行動計量学会第37回大会

<http://www.med.oita-u.ac.jp/IS/BSJ2009/>

平成21年8月6日～ キッズデザインとものづくりーキッズデザイン博

<https://www.kidsdesignaward.jp/2009expo/symposium/>

平成21年8月26日 日本心理学会第73回大会

<http://www.wdc-jp.biz/jpa/conf2009/>

平成21年8月28日～ 第3回日本セーフティプロモーション学会学術大会

<http://www.safetyprom.com/taikai09.html>

平成21年8月28日～ 第28回日本思春期学会総会・学術集会

<http://www.adolescence.gr.jp/saishin/saishin.html>

その他のイベントについてはこちら
→ <http://www.anzen-kodomo.jp/event/>



【今月の見どころ】

今月の見どころは、「犯罪から子どもを守る司法面接法の開発と訓練」プロジェクトが開設したWEBサイトです。

このサイトは、当該プロジェクトの概要はもちろんのこと、司法面接とは？といった初心者向けの分かりやすい解説から実際の研修のスケジュールや開催報告まで掲載されていて、このプロジェクトを深く知るための情報が満載です。

先のレポートでも触れましたが、このプロジェクトで手法の開発に取り組んでいる被害児童への的確な事情聴取は様々な場面で注目されています。ぜひご覧ください。

「犯罪から子どもを守る司法面接法の開発と訓練」プロジェクトWEBサイト
→ <http://child.let.hokudai.ac.jp/>

3. 「犯罪からの子どもの安全」WEBサイトアクセスランキング

【アクセスランキング】

☆ 1位 第2回「犯罪からの子どもの安全」シンポジウム予稿集
<http://anzen-kodomo.jp/pdf/col04.pdf>

2位 イベント情報
<http://www.anzen-kodomo.jp/event/>

3位 研究開発プロジェクト
<http://www.anzen-kodomo.jp/program/research/>

「犯罪からの子どもの安全メールマガジン」

▼メールマガジンに関する各種変更、配信登録・解除はこちら
<http://www.jst.go.jp/melmaga.html>

▼ご意見・ご感想、お問い合わせはこちら
c-info@anzen-kodomo.jp

■発行日 2009年7月29日

■発行元

(独) 科学技術振興機構 社会技術研究開発センター
「犯罪からの子どもの安全」研究開発領域

領域WEBサイト <http://www.anzen-kodomo.jp/>
社会技術研究開発センターWEBサイト <http://www.ristex.jp/>
